

戴帽式を終えて

呉医療センター附属呉看護学校

61 回生（1 年生）

戴帽式を終えて、私がこれから看護師を目指していく道への熱意と覚悟が更に強くなりました。式で呼名され蠟燭に火を灯し、全員が並んだ時、61 回生としてこの呉看護学校で今日まで学んできたことや実習で私達のために時間を割いてくださった方々がおられ、今この場に立っているという実感がありました。この学校に入学していなければ出会うことのなかった同級生と約半年間過ごし看護師を志す仲間となり、全員が心をひとつにしてナイチンゲール誓詞と誓いの詞を斉唱することができました。入学したばかりの時は環境も変化し生活に慣れるまで緊張することがたくさんあり、また授業も専門的でとても難しく不安なことばかりでした。心に不安を抱えたまま迎えた実習では、患者さんの話を聴くだけで精一杯でした。それでも患者さんの思いや頂いた言葉は私の胸にずっと残っており、今を生きている目の前の患者さんに誠心誠意看護をしたいという気持ちに気づきました。患者さんの心に触れたからこそ、自分はとても未熟であることに気づき、看護師を志した初心に戻ることが大切だと思いました。また、地域・在宅看護論実習Ⅰにおいて、患者さんだけではなく、地域の方々の思いを知ったからこそ、私は看護師として貢献していかなければならないと思いました。この半年間があって迎えた戴帽式は、不安と緊張の入学式と違い、熱意と覚悟をもって志を胸に刻む場となりました。そして今は 61 回生の大切な同級生がいて、信頼できる上級生と先生方がいます。自分自身が多くの人に支えられてこの道を歩んでいることを自覚して学んでいきます。また、これまで出会った人たちの思いをつないでいくことやこれから出会う人の思いを尊重し、看護師としての知識や技術を追求していきたいと思います。看護師を志す自分に誇りをもって日々努力していきます。



61 回生（1 年生）

私は戴帽式を終えて、初めて看護師という職業を目指しているという実感が湧きました。今まで、実習を終えても看護師を目指しているという実感が湧きませんでした。しかし、戴帽式で病院関係者の方々や先輩、先生方に見守られながらナースキャップをいただいた時、初めて実感が湧くとともに看護師を目指す者としての責任の重さも自覚しました。また、改めて自分のなりたい看護師像を考え直すことができました。そして、先輩の優しさにも恵まれました。お祝いの言葉を言ってくださり、式典の前に髪を結っていただきました。式典後にはお祝いの花などもいただきました。私も先輩のようになりたいと思いました。先生や先輩、病院関係者や保護者の方々の参列により、素敵な戴帽式になり感謝しています。皆さまの期待に応えられるよう、1 年生 34 人でお互いを高め合い、支え合い、これからの勉学に励みたいと思います。